

(2) きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Pythium cucurbitacearum</i> <i>Pythium debaryanum</i> <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 床土は排水のよい無病のものを使う。 2. 苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3. 換気をよくし、床内を乾かす。 4. 発病株は除去し、処分する。 (薬剤使用の特記事項) 1. 土壌消毒剤については消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2. リゾレックス水和剤、モンカット水和剤、モンカットフロアブル40、バリダシン液剤5、ダコニール1000は苗立枯病(リゾクトニア属菌)に登録がある。 3. タチガレン液剤は苗立枯病(ピシウム属菌)と苗立枯病(フザリウム属菌)に登録がある。	土 壌 消 毒	- - - - -	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤 クロピクテープ バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 キルパ
		種 子 消 毒	7 14 M4	モンカット水和剤 リゾレックス水和剤 オーソサイド水和剤80
		播 種 時	14	リゾレックス水和剤
		播 種 時 ~ 子 葉 展 開 時	7 7	モンカット水和剤 モンカットフロアブル40
		播 種 直 後	32 U18	タチガレン液剤 バリダシン液剤5
		播 種 時 又 は 活 着 後 但 し、 定 植 14 日 後 まで	M5	ダコニール1000
		は 種 後 か ら 2 ~ 3 葉 期 まで	M4	オーソサイド水和剤80
		2 つる割病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cucumerinum</i>	1. カボチャ台木を使用する。 2. 畑は5~6年、水田は2~3年以上輪作する。 3. キュウリを加害する菌はマクワウリ、メロンを侵すので、うり類の連作は特に避ける。 4. 石灰質肥料を施し、酸性を矯正する。 5. 発病株は除去し、処分する。 (薬剤使用の特記事項) 1. ベンレートT水和剤20は種子浸漬処理と種子粉衣処理を併用しない。 2. 土壌消毒剤についてはⅢ-14. 土壌病害の防除の項参照。 3. キルパー、バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は多発圃場では効果が劣る場合がある。	種 子 消 毒
土 壌 消 毒	- - - - - -			クロピクテープ バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 キルパー (混)ソイリン
定 植 前 ~ 定 植 1 か 月 後	1			ベンレート水和剤
3 炭疽病 <i>Colletotrichum orbiculare</i>	1. ポリマルチや敷わらを行う。 2. 排水をよくする。 3. 窒素肥料の多用を避ける。 4. 被害果や被害葉は除去し、処分する。 (薬剤使用の特記事項) 1. アミスター20フロアブル、アミスターオブティフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	育 苗 期 (2 ~ 3 回) 本 畑 (発病前から 7~10日おき)	1 11 11 52 M1 M1 M1 M3 M3 M3 M4 M5 M5 M7 10・1 10・1 3・M3 7・M5 11・M5 21・M5 40・M5 M7・19 M2・M1 M7・M1	トッブジンMゾル アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ミギワ10フロアブル キノンドー水和剤40 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル オーソサイド水和剤80 ダコニール1000 ダコニール粉剤 ベルコート水和剤 (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)テーク水和剤 (混)ベジセイバー (混)アミスターオブティフロアブル (混)ドーシャスフロアブル (混)カーニバル水和剤 (混)ダイアメリットDF (混)園芸ボルドー (混)ペフドー水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除				
		防除時期等	RACコード	薬 剤		
4 つる枯病 <i>Didymella bryoniae</i>	1. 被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 2. ポリマルチや敷わらをする。 3. 排水をよくする。 4. 発病株は除去し、処分する。	種 子 消 毒	M3・1	(混)ペンレートT水和剤20		
		発 病 初 期	1	トップジンMペースト		
		育 苗 期 (2～3回)	1	トップジンM水和剤		
		本 畑 (発病前から 7～10日おき)	1 2 2 2 52 M3	ペンレート水和剤 ロブラール水和剤 ロブラール500アクア スミレックス水和剤 ミギワ10フロアブル ジマンダイセン水和剤		
5 ベと病 <i>Pseudoperonospora cubensis</i>	1. 発病苗は本圃の伝染源となるので植付けない。 2. ポリマルチや敷わらをする。 3. 肥料切れになると発生しやすいので、葉面散布剤を使用し、草勢の維持管理に努める。 4. 日射、通風をよくするため、適度の摘葉をする。 5. 多湿条件で発病しやすいので湿度管理に注意する。 6. 暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 (薬剤使用の特記事項) 1. ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブル、アミスターオブティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 2. 本病害を対象にリドミルゴールドMZで防除を実施しているところでは、炭疽病、褐斑病の発生が少ない。	育 苗 期 本畑発病前から	11 11 21 39 40 49 P7 U17 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M3 M3 M3 M3 M5 3・M3 4・M3 4・M5 7・M5 11・M5 21・49 21・M5 27・11 24・M1 24・M1 27・40 27・M3 27・M5 43・40 40・M1 40・M3 40・M3 40・M5 40・M5 49・M3 M1・M5 M7・M1 M2・M1 M4・P7	ストロビーフロアブル アミスター20フロアブル ランマンフロアブル ハチハチ乳剤 フェスティバル水和剤 ゾーベック エニケード OD アリエッティ水和剤 ピシロックフロアブル キノンドー水和剤40 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル ヨネポ ヨネポン水和剤 サンヨール ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセンフロアブル ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル ダコニール1000 (混)テーク水和剤 (混)リドミルゴールドMZ (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)アミスターオブティフロアブル (混)ゾーベックエンテクタSE (混)ドーシャスフロアブル (混)ホライズンドライフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カップーシン水和剤 (混)ベトファイター顆粒水和剤 (混)カーゼートPZ水和剤 (混)ブリザード水和剤 (混)ジャストフィットフロアブル (混)フェスティバルC水和剤 (混)ベネセット水和剤 (混)カンパネラ水和剤 (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)ゾーベック エニベル 顆粒水和剤 (混)シトラーノフロアブル (混)ベフドー水和剤 (混)園芸ボルドー (混)アリエッティC水和剤		
		6 黒星病 <i>Cladosporium cucumerinum</i>	1. 低温多湿で発生しやすいため、施設栽培では保温に努めるとともに、換気をよくする。 2. 被害果や被害葉は除去し、処分する。 3. 被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。	育 苗 期 (2～3回)	3 M3	トリフミン水和剤 ジマンダイセン水和剤
		本 畑 (発病前から 7～10日おき)		M5 7・M5 40・M5 M7・M1	ダコニール1000 (混)ベジセイバー (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)ベフドー水和剤	

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
7 褐斑病 <i>Corynespora cassicola</i>	1. 窒素肥料の多用を避ける。 2. 被害葉は除去し、処分する。 3. ハウス栽培では換気を図り、多湿を防ぐ。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アミスター20フロアブル、アミスターオブティフロアブル、ストロビーフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	育苗期 (2～3回) 本 畑 (発病前から 7～10日おき)	9 11 11 12 M1 M3 M3 M3 M5 10・1 10・1 10・2 3・M3 4・M5 7・M5 11・M5 21・M5 27・M5 40・M3 40・M3 40・M5 40・M5 M1・M5 M7・19 M7・M1 M2・M1 M7・M4	フルピカフロアブル アミスター20フロアブル ストロビーフロアブル セイビアーフロアブル20 ヨネボン水和剤 ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセンフロアブル ペンコゼブ水和剤 ダコニール1000 (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)スミブレンド水和剤 (混)テーク水和剤 (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)アミスターオブティフロアブル (混)ドーシャスフロアブル (混)ブリザード水和剤 (混)カンパネラ水和剤 (混)ベネセット水和剤 (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)シトラーノフロアブル (混)ダイアメリットDF (混)ベフドー水和剤 (混)園芸ボルドー (混)ダイパワー水和剤
8 疫病 <i>Phytophthora melonis</i> <i>Phytophthora nicotianae</i> var. <i>parasitica</i>	1. 連作を避け、圃場の衛生に努める。 2. 圃場の排水をよくするとともに、高うねにする。 3. 水を茎葉にかけない。 4. ポリマルチをする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒剤についてはⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒 発病前から	- M3	ドロクロール ジマンダイセン水和剤
9 疫病(立枯) <i>Phytophthora melonis</i>	1. 連作を避け、圃場の衛生に努める。 2. 圃場の排水をよくするとともに、高うねにする。 3. ポリマルチや敷わらをする。 4. カボチノシホを施用する。	播種直後または 発病初期	28	プレビクールN液剤
10 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 換気を図り、多湿を防ぐ。 2. 被害果は除去し、処分する。 3. 花卉を除去する。 4. ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 5. 暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ゲッター水和剤はベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌に効果がある。 2. カンタスドライフロアブルは、高温条件や散布後急激に乾燥すると葉焼けや日焼け果の発生を助長するおそれがあるので注意する。また、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると薬害を生じるおそれがあるので避ける。 3. アミスター20フロアブル、アミスターオブティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	発病前から	1 1 2 2 2 7 7 7 7 7 9 11 11 12 19 19 52 M5 M7 M7 2・M7 3・M3 7・M5 7・9 U13・9	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 ロブラール500アクア スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル アフエットフロアブル パレード20フロアブル ネクスターフロアブル カナメフロアブル フルピカフロアブル アミスター20フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 セイビアーフロアブル20 ポリオキシシンAL水溶剤 ベジターボDF ミギワ10フロアブル ダコニール1000 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル (混)ベルクローブ水和剤 (混)テーク水和剤 (混)ベジセイバー (混)ピカットフロアブル (混)ショウチノスケフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
		発病前から	10・1 10・1 10・2 11・M5 17・12 M7・19 M7・19 M7・50 M7・17 M7・M1	(混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)スミブレンド水和剤 (混)アミスターオブティフロアブル (混)ジャストミート顆粒水和剤 (混)ポリベリン水和剤 (混)ダイアメリットDF (混)ラミック顆粒水和剤 (混)ダイマジン (混)ベフドー水和剤
		ハウス内防除 (くん煙)	2 2 9	ロブラールくん煙剤 スミレックスくん煙顆粒 フルピカくん煙剤
		ハウス内防除 (常温煙霧)	1 2 2 M7	ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 ベルコートフロアブル
11 菌核病 <i>Sclerotinia</i> <i>Sclerotiorum</i>	1. ポリマルチや敷わらを行う。 2. 花卉を除去する。 3. 多発圃場では、収穫後湛水をして、土壌中の菌核を死滅させる。 4. 連作を避ける。 5. 被害果は除去し、処分する。 6. 暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カンタスドライフロアブルは、高温条件や散布後急激に乾燥すると葉焼けや日焼け果の発生を助長するおそれがあるので注意する。また、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると薬害を生じるおそれがあるので避ける。 2. アミスター20フロアブル、アミスターオブティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	発病前から	1 1 1 2 2 7 7 7 11 11 11 12 52 M7 10・1 10・1 10・2 11・M5 17・12 M7・17 M7・19	トップジンM水和剤 トップジンMゾル ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル バレード20フロアブル カナメフロアブル アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 セイビアーフロアブル20 ミギワ10フロアブル ベルコートフロアブル (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)スミブレンド水和剤 (混)アミスターオブティフロアブル (混)ジャストミート顆粒水和剤 (混)ダイマジン (混)ダイアメリットDF
		ハウス内防除 (くん煙)	2 2	ロブラールくん煙剤 スミレックスくん煙顆粒
12 うどんこ病 <i>Oidiopsis sicula</i> <i>Sphaerotheca cucurbitae</i> <i>Erysiphe polygoni</i> <i>Golovinomyces orontii</i>	1. 窒素肥料の過多は本病の発病を助長するので、施肥基準に従って適正に施用する。 2. 昼夜の温度差が大きくなると発病が多くなる。	発生初期	3 3 3 3 3 3 7 7 9 M1 M1 - 19 19 19 19 39 50 M5 M7 M7 M10 M10 -	サプロール乳剤 ルビゲン水和剤 トリフミン水和剤 トリフミン乳剤 ラリー水和剤 セーフガード乳剤 アフエットフロアブル カナメフロアブル フルピカフロアブル ヨネポ ヨネポン水和剤 サンヨール ポリオキシシンAL水和剤 ポリオキシシンAL水溶剤 ポリオキシシンAL乳剤 ベジターボDF ハチハチ乳剤 プロパティフロアブル ダコニール1000 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル モレスタン水和剤 パルミ ハッパ乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
		発 生 初 期	- 7・9 U6・3 3・M3 4・M5 7・M5 U13・9 M7・17 M7・19 M7・19 -・19 21・M5 27・M5 40・M5 40・M5 M7・50 M7・M1 M2・M1	エ コ ピ タ 液 剤 (混)ピカットフロアブル (混)パンチョTF顆粒水和剤 (混)テーク水和剤 (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)ショウチノスケフロアブル (混)ダイマジン (混)ポリベリン水和剤 (混)ダイアメリットDF (混)デュアルサイド水和剤 (混)ドーシャスフロアブル (混)ブリザード水和剤 (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)ラミック顆粒水和剤 (混)ペフドー水和剤 (混)園芸ボルドー
		ハウス内防除 (くん煙)	3 M2	トリフミンジェット 硫 黄 粒 剤
		ハウス内防除 (常温煙霧)	M10	モレスタン水和剤
13 斑点細菌病 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>lachrymans</i>	1. ウリ科以外の作物と輪作を行う。 2. 被害茎葉は早めに処分する。 3. ハウス資材は高温時に密閉して数日間蒸し込む。 4. 多湿条件で発病しやすいので湿度管理に注意する。 5. ポリマルチ栽培を行う。 6. 暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 7. 資材を消毒する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 幼苗期には有機銅(キノンドー水和剤40、キノンドーフロアブル、ドキリンフロアブル)を使用し、無機銅水和剤(コサイド3000、Zボルドー、ムッシュボルドーDF)は本葉5～6枚以降に使用する。 2. 本病対象に防除を実施しているところでは、緑枯細菌病、軟腐病(乾腐症)の発生が少ない。	定 植 時 発 生 初 期	P2 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M1 24・M1 24・M1 NC・M1 M1・M1 M2・M1 M2・M1 M4・M1 M7・M1 M1・M5	オ リ ゼ メ ー ト 粒 剤 コ サ イ ド 3 0 0 0 Z ボ ル ド ー ム ッ シ ュ ボ ル ド ー D F キ ノ ン ド ー 水 和 剤 4 0 キ ノ ン ド ー フ ロ ア ブ ル ド キ リ ン フ ロ ア ブ ル ヨ ネ ポ ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 (混)カスミンボルドー (混)銅パーシン水和剤 (混)ジーファイン水和剤 (混)キンセット水和剤 (混)イデクリン水和剤 (混)園芸ボルドー (混)オキシラン水和剤 (混)ペフドー水和剤 (混)シトラノフロアブル
14 ズッキーニ黄斑モザイクウイルスの感染によるモザイク症及び萎凋症	1. アブラムシ類の防除を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本剤の入っている容器に水を加え5倍希釈液とし、固形物を完全に溶解した後、広口の容器に全量を移し、最終的に25倍希釈液とする。この希釈液に添付のカーボランダムを加えてよく混ぜながら綿棒などを使って展開した一対の子葉又は第1本葉の全面に有傷接種する。	育 苗 期	-(生)	(生) キュービオZY-02
15 緑斑モザイク病 (KGMV)	1. 無病種子を使う。 2. 病苗は早く発見して処分する。 3. 健全苗を植える。 4. 汁液による接触伝染が激しいので、接木、芽かぎ、整枝にあたっては第3 燐酸ソーダ液で資材、履物等を消毒する。 5. 発病地には、ウリ類を3～4年栽培しない。 6. 発病株は抜き取って適正に処分する。 7. 遅く発病したものは作業時にふれないようにし、手入れは最後にする。 8. 種子、土壌、接触によって伝染し、アブラムシ類では伝染しない。			

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
16 アブラムシ類 (モザイク病 CMV ZYMV)	1. 苗床及び本畑周辺の罹病植物を取り除く。 2. 圃場の周辺に防虫ネットを高さ1.3mぐらいいはったり、シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープをするとアブラムシの飛来が少ない。 3. 施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット(1mm目合以下)をはり、成虫の飛来を防止する。 4. 病株は早めに処分する。 5. カボチャ台キュウリではCMVとZYMVの混合感染で植物体が萎凋する。 6. 周辺雑草を処理する。 (薬剤使用の特記事項) 1. アドマイヤー1粒剤を育苗期後半に使用する場合、直径9cm以上のポットで育苗した苗に使用することとし、それ以外での使用は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。 2. アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤー水和剤、アドマイヤーフロアブルは施設栽培キュウリに登録がある。 3. アクタラ顆粒水溶剤はミカンキロアザミウマにも登録がある。 4. 本虫対象にダントツ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 5. ベネビアODをきゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしない。 6. ウララDFは吸汁防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	播種時	4A	ベストガード粒剤
		鉢上時	1A	バイデートL粒剤
		育苗期	28・4A	(混) ミネクトデュオ粒剤
		鉢上時 ～育苗期後半	4A	アルバリン粒剤
		育苗期	4A	スタークル粒剤
		定植時	4A	アドマイヤー1粒剤
		育苗期後半	28	ベリマーケSC
		定植当日	28	ヨールフロアブル
		定植時	4A・28	(混) アベイル粒剤
		発生初期	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	モスピラン粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アクタラ粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アドマイヤー1粒剤
			3A	アデイオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウト乳剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	ロディー乳剤
3A	テルスター水和剤			
3A	テルスターフロアブル			
3A	マブリック水和剤			
3A	マブリック水和剤20			
3A	アーデント水和剤			
3A	トレボン乳剤			
3A	トレボンEW			
4A	アドマイヤー水和剤			
4A	アドマイヤー顆粒水和剤			
4A	アドマイヤーフロアブル			
4A	モスピラン顆粒水溶剤			
4A	ベストガード水溶剤			
4A	バリアード顆粒水和剤			
4A	アクタラ顆粒水溶剤			
4A	ダントツ水溶剤			
4A	ダントツ粒剤			
4A	スタークル顆粒水溶剤			
4A	アルバリン顆粒水溶剤			
4A	アルバリン粒剤			
4A	スタークル粒剤			
4C	トランスフォームフロアブル			
9B	チェス顆粒水和剤			
9B	コルト顆粒水和剤			
21A	ハチハチ乳剤			
21A	ピラニカEW			
23	モベントフロアブル			
28	ベネビアOD			
29	ウララDF			
-	サンヨール			
-	エコピタ液剤			
ハウス内防除 (くん煙)	3A	マブリックジェット		
	4A	モスピランジェット		
ハウス内防除 (常温煙霧)	4A	アドマイヤー水和剤		

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
17 タネバエ	1. 成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2. レタス、ハクサイ、キャベツ等の残根を処分する。	播 種 時	1B	カ ル ホ ス 粉 剤
18 ウリハムシ (ウリバエ)	1. シルバーポリフィルムによるマルチを行う。	発 生 初 期	3A 4A 4A 4A 13	ア デ イ オ ン 乳 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 コ テ ッ フ ロ ア ブ ル
19 ハダニ類	1. 圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2. 作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。 3. 夏期には栽培終了後ハウスを密閉して高温を保つ。	発 生 初 期	6 6 10B 13 21A 21A 21A 21A 23 25A 33 - -・5 -・19 25B・21A 30	コ ロ マ イ ト 乳 剤 ア グ リ メ ッ ク バ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル コ テ ッ フ ロ ア ブ ル ダ ニ ト ロ ン フ ロ ア ブ ル ピ ラ ニ カ E W サ ン マ イ ト フ ロ ア ブ ル モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル ダ ニ サ ラ バ フ ロ ア ブ ル ダ ニ オ ー テ フ ロ ア ブ ル ハ ッ パ 乳 剤 (混) ダブルシューターSE (混)デュアルサイド水和剤 (混)ダブルフェースフロアブル グ レ ー シ ア 乳 剤
		ハ ウ ス 内 防 除 (く ん 煙)	3A 3A	マ ブ リ ッ ク ジ ャ ッ ト テ ル ス タ ー ジ ャ ッ ト
20 オンシツコナジラミ	1. 苗による持ち込みに注意する。 2. 施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット(1mm目合以下)をはり、成虫の飛来を防止する。 3. 周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4. 被害植物や雑草は除去後、土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。 5. 夏期には、栽培終了後にハウスを密閉して高温を保つ。 6. 侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げる事ができる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アプロード水和剤は、オンシツコナジラミ幼虫に登録がある。	発 生 初 期	3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 16	ア デ イ オ ン 乳 剤 ア グ ロ ス リ ン 水 和 剤 ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 サ イ ハ ロ ン 水 和 剤 サ イ ハ ロ ン 乳 剤 ス カ ウ ト 乳 剤 ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル ロ デ イ ー 乳 剤 テ ル ス タ ー 水 和 剤 マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0 ア ー デ ン ト 水 和 剤 ア プ ロ ード 水 和 剤
21 コナジラミ類	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本虫対象にダントツ粒剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 2. 本虫対象にトレボンEWで防除を実施しているところでは、ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)の発生が少ない。 3. ベネビアODをきゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしない。	播 種 時 鉢 上 時 育 苗 期 定 植 時 育苗期後半 ～定植当日 定 植 時 発 生 初 期	4A 4A 4A 4A 28 28 4A・28 4A 4A 4A 4A 3A 4A 4A 4A 4A	ベ ス ト ガ ード 粒 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤 ベ リ マ ー ク S C ヨ ー バ ル フ ロ ア ブ ル (混)アベイル粒剤 ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤 ベ ス ト ガ ード 粒 剤 5 ア ク タ ラ 粒 剤 ダ ン ト ツ 粒 剤 ト レ ボ ン E W モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ベ ス ト ガ ード 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
		発 生 初 期	4A 4A 4A 4A 4C 6 6 9B 21A 21A 23 28 29 30 UN UN - - -・5 21A・16	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スタークル粒剤 アルバリン粒剤 トランスフォームフロアブル コロマイト乳剤 アグリメック コルト顆粒水和剤 ハチハチ乳剤 サンマイトフロアブル モベントフロアブル ベネビアOD ウララDF グレーシア乳剤 モレスタン水和剤 パルミーノ サンヨー乳剤 エコピタ液剤 (混)ダブルシューターSE (混)アプロードエースフロアブル
		ハウス内防除 (くん煙)	4A	モスピランジェット
22 ミナミキイロアザミ ウマ (キュウリ黄化えそ病 MYSV)	1. 苗で本圃に持ち込まない。 2. ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 3. シルバーマルチをする。 4. 周辺雑草を処理する。 5. ハウス栽培では収穫終了直に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し(夏場の晴天日であれば1日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 6. ハウス開口部に防虫ネット(1mm目合以下)をはり、成虫の飛来を軽減する。 7. 侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げる事ができる。 〔キュウリ黄化えそ病対策〕 1. 発病株は見つけしだい抜き取り、ポリ袋に密封して圃場外へ持ち出す。 2. 施設栽培では開口部に防虫ネットをはったり、周辺に反射シートを敷設するなどして、侵入防止を図る。 3. 青色粘着トラップを用いて媒介虫の発生を観察し、発生初期の防除に努める。 4. 媒介虫の防除は育苗期から徹底し、本圃に媒介虫を持ち込まないようにする。 5. 媒介虫の生息や増殖場所となるので、施設内外の雑草を防除する。また、施設内に栽培に不要な植物を持ち込まない。 6. 栽培終了時は施設を密閉処理して媒介虫を死滅させ、圃場外への分散を防止する。 7. キュウリの他、メロン、スイカ、シロウリ等にも発生するので注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発生初期に集中的に防除する。 2. ハウス等温度の高いところで越冬するので注意する。 3. アドマイヤー水和剤、アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤーフロアブル、パイレーツ粒剤は施設栽培のみの登録である。 4. パイレーツ粒剤は対象害虫が落下する範囲内の株周辺に散布する。 5. 本虫対象にダントツ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。	播 種 時 または 鉢 上 時	4A	ベストガード粒剤
		育 苗 期	1A	バイデートL粒剤
		鉢上時 ～育苗期後半	28・4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 4A・28	ベリマークSC (混)アベイル粒剤
		定 植 時	1B 1B 4A 4A 4A 4A	オルトラン粒剤 ジェイエース粒剤 アドマイヤー1粒剤 ベストガード粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発 生 初 期	3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 5 6 6 13 15 21A 23 28 - (生) -・5	アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤー水和剤 アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤 アグリメック コテツフロアブル カスケード乳剤 ハチハチ乳剤 モベントフロアブル ヨーバルフロアブル (生)パイレーツ粒剤 (混)ダブルシューターSE
		ハウス内防除 (くん煙)	4A	モスピランジェット

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期等	RACコード	薬 剤
23 ハモグリバエ類	1. 外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2. ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3. マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。 5. 改植時には土壤消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6. 周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7. 侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。	育苗期 または 定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		鉢上時 ～育苗期後半	28・4A	(混) ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 28	プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル
		発生初期	5 28 28 UN -・5	スピノエース顆粒水和剤 プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル プレオフロアブル (混) ダブルシューターSE
24 トマトハモグリバエ	8. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し(夏場の晴天日であれば1日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理しているところでは、ミナミキイロアザミウマの発生が少ない。	定植時	4A	アクタラ粒剤 5
		発生初期	3A 6 15 30	アグロスリン乳剤 アフアーム乳剤 カスケード乳剤 グレーシア乳剤
25 ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	1. ハウス開口部を防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	若齢幼虫期	4A 4A 5 6 11A 11A 21A 28 28 28 30 -・5	モスピラン顆粒水溶剤 バリアード顆粒水和剤 スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 ジャックポット顆粒水和剤 ハチハチ乳剤 フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤 (混) ダブルシューターSE
26 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. ハウス開口部を防虫ネット（4mm目合以下）等で被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2. 防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	発生初期	6 28 30	アフアーム乳剤 ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤
27 センチュウ類	1. 水田に転換可能な畑では、2～3年に1回の割合で水田に戻す。 2. 苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壤病害虫の防除の項参照。 2. ソイリーンとダブルストッパーはネコブセンチュウとネグサレセンチュウに、クロピクテープ、キルパー、NCSはネコブセンチュウに登録がある。 3. パストリア水和剤は、蒸気などの高温消毒、クロルピクリン、は有効成分が死滅するので、併用を避ける。 4. パストリア水和剤、ネマトリンエース粒剤、ラグビーMC粒剤、ネマキック粒剤はネコブセンチュウに登録がある。 5. バイデートL粒剤はネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウに登録がある。	土 壌 消 毒	8B 8B 8B 8F 8F 8A・8B 8A・8B 8A・8F	クロールピクリン ドロクロール クロピクテープ キルパー NCS (混) ソイリーン (混) ダブルストッパー (混) ディ・トラペックス油剤
		播種または 定植前	1A 1B	バイデートL粒剤 ネマトリンエース粒剤
		定 植 前	1B 1B - (生)	ラグビーMC粒剤 ネマキック粒剤 (生) パストリア水和剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する